

1 3. 以下の文章を読み、() の中に当てはまる適切な語句を解答用紙に記載しなさい。(1点×7=7点)

- 1) 平成 23 年の死因別死亡率の 1 位は悪性新生物、2 位は心疾患、3 位は (①) である。
脳血管疾患
- 2) がんは再発・転移の不安がある中、長期に生存できるようになり、(②) となったことから、がんとともに生きることを考える時代になった。
慢性疾患
- 3) がんと診断された人のことを (③) といい、共通の体験を持つ人同士がお互いを支える働きをするのが、(④) である。
がん患者
- 4) がんのリハビリテーションには、(⑤) リハビリテーション、回復的リハビリテーション、維持的リハビリテーション、緩和的リハビリテーションがある。
予防的
- 5) WHO により、痛みの強さに応じて治療する「3 段階の除痛ラダー」が提示されているが、日本の (⑥) の消費量は先進国の中で最低レベルであり、疼痛マネジメントが遅れている。
医療用麻薬
- 6) (⑦) は、身体面、心理面、社会面、スピリチュアル面が関与するため、表出される苦悩の内容は多面的である。
トータルケア

1 4. 次の文章は、救急医療・看護について述べたものである。正しいものには○を、誤っているものには×をつけなさい。(1点×5=5点)

- 1) ショックは、中枢の循環不全のことで、もっとも重大な侵襲であり、重要臓器の血流が障害されておこる急性の疾患群である。
- 2) 外傷患者のプレホスピタルケアが重要なのは、いかに早く手術できるかで、予後が左右されるからである。特に受傷から 10 時間を、「外傷のゴールデンアワー」という。
1 時間
- 3) カーラーの救命曲線によると、呼吸心臓停止後 7~8 分で、傷病者は 100% 死に至る。
*20分 7~8分
100% 死亡*
- 4) 看護師が医療施設でのトリアージを担当する場合、問診とフィジカルアセスメントにより病態を推測し、重症度と緊急度を判断し、診察の順番や治療内容の優先度を決める。
- 5) 生命危機のある救急患者や重篤な患者で、意識があり、治療環境に対するストレスが強い場合には、せん妄等を予防するために人工呼吸器のアラーム音は消音にする。